



防衛医大病院広報誌 第14号 2024年5月発行
 企画・編集 防衛医科大学学校病院 患者支援センター
 発行責任者 塩谷 彰浩
 住 所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2
 T E L 04-2995-1511 (代表)



まもる

防衛医大【護】通信

令和6年能登半島地震について、埼玉県知事からの派遣要請により当校(当院)のDMAT(災害派遣医療チーム)が派遣(1月21日~1月23日(第1陣4名)、1月24日~1月26日(第2陣8名))され医療支援を行いました。

支援活動を行った、医師、看護師、薬剤師等によるDMATと埼玉県の災害医療体制や能登半島地震の医療活動という貴重なご経験についてそれぞれの職種の立場から講演(令和6年3月6日(水))を実施しました。



市民公開講座開催報告

令和6年2月15日(木)に開催しました



今回は、眼科とリハビリ部による市民公開講座を開催し、48名の方に参加頂きました。

●『白内障、緑内障、加齢黄斑変性について』 眼科 播本 幸三 医師
 それぞれの目の病気の症状や手術方法等など、映像を用い受講者にわかりやすく、講義をして頂き、みなさん感心している様子でした。



●高齢者のフレイル(介護)予防 リハビリテーション部 中村 洋介 医師
 フレイル予防には運動だけでなく、栄養も大切であること等の講義の他に、嚥下機能のテストとして30秒の間に唾を何回飲みこめるか等を実際に行ったりしました。



災害対処訓練報告

令和5年11月27日(月)に実施しました

大規模災害は発生時において、防衛医科大学学校病院は、災害拠点病院として、組織的に人的に、迅速的確に災害医療が提供できるよう、病院としてとる行動について理解、習熟することを趣旨とした訓練を創立記念日である11月27日に実施しました。



診療科紹介 ① 呼吸器外科 講師 橋本 博史

当科では、肺癌、転移性肺腫瘍、自然気胸などの肺疾患、縦隔腫瘍や胸壁腫瘍、膿胸など呼吸器外科領域全般の疾患を対象に治療を行っています。外科治療においては、胸腔鏡下手術や、区域切除、部分切除といった縮小手術を積極的に行い、低侵襲化を進めております。また、インフォームドコンセントを重視し、患者さんの全人格を尊重して患者さんが納得できる治療を行うように心がけるとともに特に外科治療にこだわることなく、放射線治療や内科的治療を積極的に組み入れ、出来るだけ負担が少ない手段で適切に治療目標を達成できるように努めております。

防衛医大病院においても、低侵襲手術支援ロボット「da Vinci Xi」が導入され、当科では令和6年4月からロボット支援胸腔鏡下肺葉切除術を開始致します。安全な導入に留意しながら、順次、縦隔腫瘍手術や肺区域切除術にも導入していきます。

【疾患別診療内容】

肺癌 肺葉切除術や小型肺癌に対する肺区域切除術を胸腔鏡補助下(6-8cmの小開胸と胸腔鏡によるハイブリッド手術)に実施しています。末梢小型肺癌においては、特性に応じて、積極的に肺部分切除術を実施しています。気管支形成や胸壁合併切除等の拡大手術も行っています。

転移性肺腫瘍 胸腔鏡を用いた肺部分切除術を実施しています。CT ガイド下マーキング等を駆使して、極力完全鏡視下に行っています。腫瘍の特性に応じて、区域切除や肺葉切除術を行うこともあります。

縦隔腫瘍 良性腫瘍に対する胸腔鏡下手術から悪性腫瘍に対する拡大手術まで、病態に応じた手術を実施しています。

その他の胸部疾患 肺良性腫瘍や胸壁腫瘍、自然気胸などに対しては胸腔鏡下手術を実施しています。急性・慢性膿胸に対する外科治療も積極的に実施しています。手掌多汗症やレイノー病に対しては、細径の胸腔鏡を用いたより低侵襲な方法で、胸腔鏡下胸部交感神経節切除術を行っております。

気道狭窄 悪性、良性気道狭窄に対するステント挿入を軟性気管支鏡や硬性気管支鏡下に行っており、患者さんのQOL改善に良い成績をおさめております。

最近5年間の手術件数および疾患別内訳を以下に示します。

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
手術件数	196	203	180	184	184
うち胸腔鏡手術	154 (78.6%)	167 (82.3%)	147 (81.7%)	160 (87.0%)	155 (84.2%)
疾患別					
原発性肺癌	92	94	86	80	88
転移性肺腫瘍	43	41	33	48	44
縦隔腫瘍	9	8	12	15	12
気胸	22	15	10	11	6
その他	30	45	39	30	34

今後も地域の皆様と連携しながら、呼吸器外科疾患の治療に貢献していきたい所存です。今まで同様お力添えをよろしくお願いいたします。

診療科紹介② 皮膚科 教授 佐藤 貴浩

当科は、皮膚感染症、皮膚アレルギー疾患、良性・悪性腫瘍の手術・化学療法を含めて様々な皮膚疾患の診療を行っております。スタッフは現時点で教授、准教授、助教4名、専門研修医7名、医学研究科1名で対応しています。病床は8床、1日平均外来患者数が約80名、年間手術件数は皮膚生検を含めると約750件になります。多数の患者さんを近隣の医療機関より連日ご紹介いただいております。具体的に対応している疾患をあげますと、蜂窩織炎や带状疱疹などの細菌・ウイルス感染症、薬疹、有棘細胞癌・基底細胞癌・悪性黒色腫・皮膚リンパ腫・乳房外パジェット病など腫瘍性疾患、下肢循環障害による下腿・足趾潰瘍、水疱症や各種膠原病などの自己免疫疾患、そして接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、乾癬、蕁麻疹、痒疹などです。食物アレルギーやアナフィラキシーの原因精査も行っています。また特殊なものとしては多汗症、無汗症といった発汗異常症の検査・治療があげられます。少ないスタッフ数ではありますが、地域の医療施設、クリニックの先生方のご要望にお応えできるよう、また皮膚疾患でお困りの患者さんのニーズに対応して最新の医療を提供できるように日々奮闘しております。

初診受付は平日午前11時までとなっております。一般の診療時間は午前中のみで、午後は手術や特殊外来となります。特殊外来へ直接受診はできません。午前中の初診診療を受けてからになります。また、昨年より当科を初診される方は医療施設からの紹介状が必須(*)となりました。なお、色素斑(シミ)や血管腫(赤アザなど)などに対するレーザー治療およびケミカルピーリングを含めた美容皮膚科診療は行っておりませんのでご紹介される際にはご注意ください。また特定機能病院としての性格上、逆紹介率の向上が求められており、ご紹介いただいた患者さんの診断、治療方針の決定後、もしくは症状安定後には紹介元ないし近隣の医療施設にお戻りいただくこととなります。当方から継続治療や経過観察のご依頼をさせていただくこととなりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。



皮膚科外来受付



外来手術室風景

皮膚科と形成外科外来の診察室は一緒になっています。

(*)当科受診が初めての方もしくは過去1年以上受診されていない方は紹介状が必要ですので、ご持参頂きますようご協力御願ひ申し上げます。



病院理念

高度で安全な医療を提供しつつ地域医療並びに自衛隊の医療・衛生活動に貢献し、優れた自衛隊医官・看護官等を育成する。

基本方針

- 1 患者さんの視点に立った、安全で良質な医療を提供する
- 2 地域医療機関と密に連携し、地域に貢献する
- 3 高度で先進的な医療を提供する
- 4 地域の中核として救急医療を実践する
- 5 新興感染症に対して敏速対応できる体制を整える
- 6 災害対処能力の向上に努める
- 7 自らの使命感を自覚し、豊かな人間性と高い倫理観を備え、自衛隊の多様な任務にも対応しうる医官・看護官等を育成する

【初診予約についてお願い】

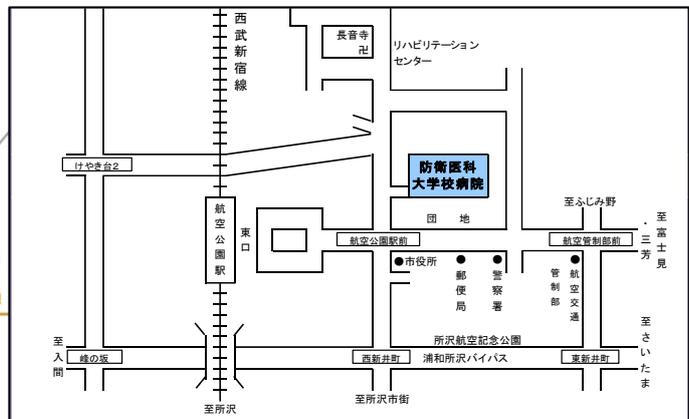
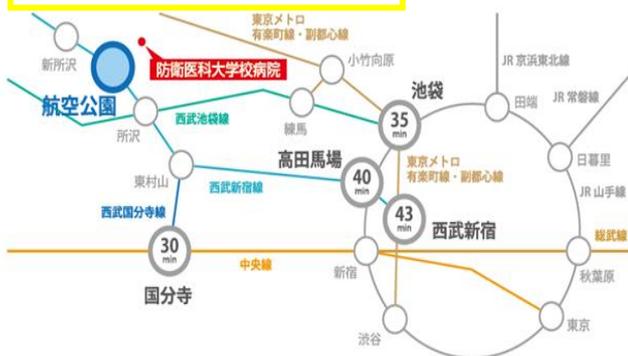


※右のQRコードを読み取り「初診予約受付のご案内」を参照ください。

当院の精神科、感染症・呼吸器内科、脳神経内科、膠原病内科、血液内科、糖尿病内分泌内科、泌尿器科（泌尿器科一般・尿路腫瘍）、泌尿器科特殊外来【尿道狭窄症・尿失禁（男性）】、消化器内科特殊外来（脂肪肝炎）の初診外来は完全紹介予約制とさせていただきます。

上記診療科初診希望の患者さんを紹介頂く場合は、医療機関の皆様から当院地域医療連携センターへ FAXにて初診予約をお願い致します。患者さんからの予約は受付しておりません。ご理解・ご協力を宜しくお願い致します。

アクセス(交通のご案内)



●電車でお越しの方

西武新宿線『航空公園駅』下車徒歩5分

●車でお越しの方

浦和所沢バイパス「西新井町」交差点を右折し約600m



地域医療連携センター
初診予約、緊急入院・受診、
セカンドオピニオン、病状照会等
TEL:04-2995-1511
内線 3043・3882

患者支援センター・がん相談支援センター
転院・退院調整、在宅調整、医療福祉相談、
がん患者相談、脳卒中相談等
TEL:04-2995-1511
内線 6123~6126